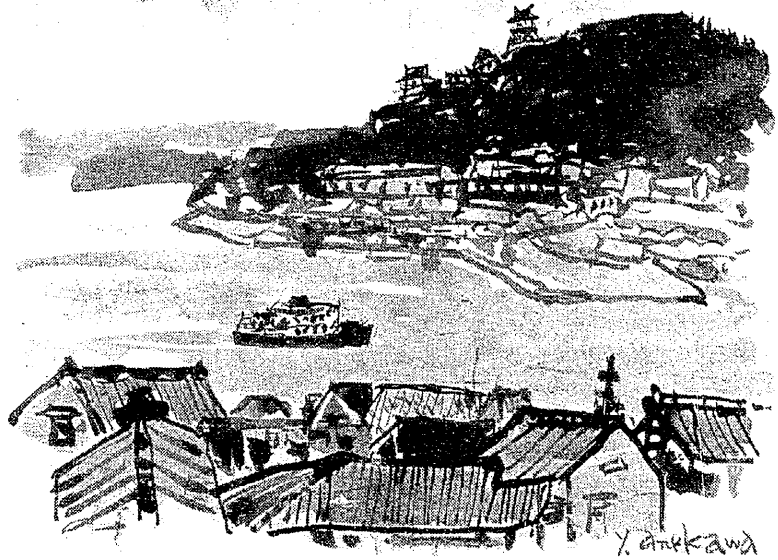


海と船と港



平戸

画 姉川良男

十六世紀に、わが国初の外国貿易港として開かれた平戸は、オランダ商館が長崎の出島に移されるまでの約百年間わが国唯一の貿易港だった。フェリー、漁船が行き交うが、昭和三十七年に復元された平戸城の天守閣からは、急流の平戸瀬戸が一望できる



姿見

やっと梅雨が明けてほっとする間もなく、連日の猛暑で少しバテ気味かなと願うこの頃ですが、朝がたなどは涼しくなりました。うに感じられます。

二人でお中元の買物に出かけました。屋のギフトセンターでもほんの数人程度でした。もっと混雑を予想した。大牟田、荒尾は不景気なのです。していましたが、あまりの少なさを私達の生活はさうなのだから、さう思うと、何かじつとしていられない気分になります。みんな力を合わせて、良い方向にいこうと頑張らなければと思えます。

荒尾ブロック 平川 八重子

街は不景気

控えて、炭鉱の将来が心配されていますが、ほんとうに大牟田が、荒尾が、これ以上不景気になれば私達の生活はさうなのだから、さう思うと、何かじつとしていられない気分になります。みんな力を合わせて、良い方向にいこうと頑張らなければと思えます。

三池主婦会

1986年度 定期総会

とき 8月24日(日) 午前9時
ところ 労働金庫大牟田支店2階ホール

遠雷や睡れいまだいどけなく、空は次第に黒さを増して入る。八月の雷雲のひるがりは早い。いとけなく睡っていたいどけもやがて頻度と音の強さを増してきた雷の近づくに目を覚ます。たつぷり午睡をとりて気分がよいのか、はいたしてくる。汗で濡れたパジャマを着かえさせるため裸にする。裸になった涼しさ、解放感のためかシャツを着せようとする親の手を払って部屋中を逃げまわる。

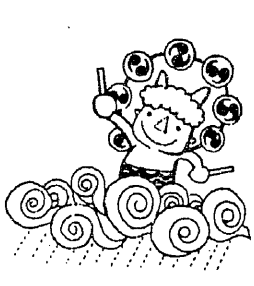
「さ、早く着ないと雷様にオヘソを打られるぞ」といって追いかける。真夏の午後のおどろきも見られる母子の光景である。雷雨がやってくる前に乳児が不眠、発熱、食欲不振、呼吸困難、ウル教授は述べている。

歳時記

雷にヘソをとられる

神山恵三

あつはとどきとてひきつけずら起すといふも。また、「雷雲に先立つ期間にわたくは圧迫された感じがする。この不快は、もしもわたし



(生気象学者)

くらしの知恵

工夫しよう スタミナ料理

暑い夏です。毎日の暮らしの中で、疲労が積み重なって体がだるく、「スタミナをつけたい」という願いは切実です。夏を元気に生き抜くためには、とくにだるいの食事には気配りがほしいものです。では、スタミナ料理とはどんなものをいいますか。――ホルモン焼きのような内臓料理や、へ



750のまちが



(問題) 下の絵は上と7ヵ所のまちがいがあります。どこでしょう。(印刷のよごれやかすりはまちがいに含まれません) 出題・西山 進

犬死

すぎもと かずお

「二年前の大雪の日に、三池の有明鉱で坑内火災があって、八十三人が殺されました。殺されたというのはいいすぎでしょうか。めずらしく、火元も原因も確認され、人為的なミスも明らかだというのに、なぜか送検された者全員が不起訴になってしまいました。人災であっても、責任はないというのです。なぜ死んだかが明らかにならないのなら、やっぱり殺されたことになるのではないのでしょうか。死んだ人は犬死(無益に死ぬこと。むだじに。)で、殺され損ということになり

免罪―― 仕方がないからあきらめろ

スペースシャトルが爆墜 チェルノブイリ原発がメルトダウン ―カク、かく、しかじか― 所詮、先端科学にも安全はない 火災は火災でも 月とスッポン

それで 死に至るも至らないも 天災だとあきらめろ 免責――なのだ

右の詩は、このほど刊行された西日本反核詩歌句集(第三集)『日の花』に収載された機を克服し、平和で豊かな生活を――と、ジャン

ルや立場をこえて百五十九人が作品を寄せています。

(編集、発行は同詩歌句集刊行委員会。二百八頁、千八百円。

日の花



西日本反核詩歌句集 第三集